

第5期北見市障がい福祉計画の策定に関する意見交換会 議事録（要旨）

●日 時：平成29年9月1日(金) 午後2時00分～4時00分

●会 場：留辺蘂総合支所 1階 会議室

●参加者： 【参加者】 8人

【策定委員】 2人

【事務局】 8人

意見交換会で出された地域の課題、障がい当事者や関係者の意見等

★参加者★

- ・医療的ケアを行っているところが管内でも4件しかない。地方からたくさんのお問合せを受けるが対応ができなく困っている。重症児(者)の介護はほとんど家族が付いて行っている。家族も仕事や生活があるので24時間の介護には限界があり、どうにかしてほしいという問い合わせが多い。先月も道庁に行って医療的ケアの研修申請等にかかる費用がかかってしまうのを何とかならないか話してきた。
- ・北見市はこの問題についてどう考えているか、認識しているのか。
- ・加算もつけてほしい。1日何回やっても1,000円、その見直しを新たにやってほしい。町独自でそういったものあればいい。
- ・研修費の助成も厳しいのだろうか。

★事務局★

- ・要望は真摯に受け止めてはいると思うが道もなかなかお金がなく、減免なども難しい。自分の方からも道に話してみる。国の基本指針にも示されているが、医療的ケアのコーディネーターを配置するとあるが、北見市としてもコーディネーターとしての体制の構築を目指していきたい。少しずつ取り組んでいきたいと思っている。
- ・加算についてだが、気持ちはわかる。ただし、国の報酬で運営しているので、報酬体系上の問題となる。
- ・研修費の助成についてだが、今すぐは出来ないが、調べて該当しそうなものあれば連絡する。

★参加者★

- ・グレーゾーンが多く、児童相談所で判定され、「きらり」・保育園に通所している子どももいるけど、それ以外は保護者が認めずその子に合った通所が受けられないという現状が増えてきている。その子が就学に至って教育委員会や学校と打ち合わせする

もそこからはお任せなので、ちゃんと繋がっていけるか心配。保護者が認めないと先に進めない。また通所に至っても保護者の仕事が忙しく送迎ができず通所できない。それ以降就学しても登校拒否になるケースもある。

・5歳児検診に来ない保護者もいる。就学時に引継ぎ書があり、保育士と学校との話し合いはなされているが、保護者、当事者とは直接会っていないので、実情がわからない。

★事務局★

- ・今は5才児検診もあるので、以前よりはそういったケースは少ないと思う。
- ・支援ファイルといったものがあるといいと思う。

★策定委員★

・教育委員会も支援ファイル（リレーファイル）が必要だと思っている。実際に診断を受け、かかわりが必要な子どもは作っているが、グレーゾーンにいる子どもが難しい。個人情報の問題もあるが、学校との連携の中で、積極的に情報公開できるところはしていった方がよい。中学校から高校で繋がらず、高校を卒業してからどうするか、といった壁にぶち当たる。福祉に繋げる必要がある。

★参加者★

・現時点では、とりあえず保育士が多いと落ち着いてくるので、臨時職員ではあるが支援が必要な子どもについては、何とか対応している。グレーゾーンといった手帳がない人たちでも必要なサービスを利用できるようにすべき。

★事務局★

・療育手帳持っていないとできないという時代ではないので、親を支援していくためにも足りないことへの対応が必要。職員のスキルアップなども必要。

★参加者★

・留辺薬についてだが、なかなかヘルパーが入らない。北見自治区でも無理で、10何件も電話したが、駄目だった。留辺薬は、在宅の高齢障がい者が多いので、居宅介護を増やしたいが、今は少なく困っている。

・一般就労の推進についてだが、留辺薬では、留辺薬から北見に一般就労は実際には困難なので、北見市（行政）での清掃とかできないのかと思う。また、シルバー人材センターは人材不足なので、例えば障がい者がシルバー人材センターで働けるようにできないのか？

・次に権利擁護の推進だが、留辺薬には200人くらい身内のない人が流入していることもあり、多くいる。成年後見申立の必要性を感じている。

・留辺薬では外出支援といっても社会資源がないので検討していきたいと思う。

・防災について。災害があった際、地域の障がい者は誰からも連絡が来なかった。要

支援者台帳には載っていると思われるので、仕組みの構築を早くお願いしたい。

★事務局★

- ・ヘルパーについてだが、置戸高校で養成しても全道から集まるが、それぞれに帰っていき、残ってくれないし、北見市内でも人がいない。自治区単位でも議論してみたい。
- ・就労支援については、フォーラム行い全道にアピール。
- ・成年後見人は少ないと思う。

★策定委員

- ・求人はしており、全戸配布、広報、伝書鳩などを活用している。現在社会福祉協議会留辺蘂支部では4人体制だが、1人は北見（自治区）の人、やめた人にもカムバックをかけている。資格持っている人がいない訳ではないけれど少なく、圧倒的に足りない。

★事務局★

- ・要援護者台帳は常呂・留辺蘂でも去年から作成している。しかし対象の人に通知を送っても返ってこない。名簿の精度上げるよう取組みたい。

★事務局★

- ・要支援者台帳については留辺蘂と常呂は先行しているが、北見自治区はまだ整備されない。支援する側（町内会・民生委員）への理解・周知について、市の防災担当課と一緒に対応していく予定。提供に躊躇っている人でも緊急性があれば使う。

★事務局★

- ・危機管理室で作成中の要援護者台帳北見の分はまだ終わってない。地域で助ける人がどのような役割を担うか、周知が滞っている。なんとか急ごうという状況

★参加者★

- ・身障協会の平均年齢85,6歳で年齢層高い。旅行買い物は助けがあってできていたけれど助ける人いない。ヘルパーに協力お願いできないか。

★事務局★

- ・活動会報誌窓口に置いたり、広報に募集を載せたりはできる。手帳受け渡しの際にも渡すこと可能。具体的なやり方は要相談

★参加者★

- ・社協のヘルパーさんが医療的ケアをやってくれたら嬉しい

★策定委員★

・収支を考えると、現状今でさえ赤字経営であるのにさらに医療的ケアを実施すると
なると財政的な面でも難しい。これ以上はきつところである。今後の課題である。

★参加者★

・社協のヘルパーは土日・夜間行っているか。

★策定委員★

・土日は介護ヘルパーを派遣している。夜間もやっていないわけではないが、希望が
ないので、実際はやっていない。人材の関係でも難しい。

了